

# 日本呼吸器疾患患者団体連合会ニュース

2018年2月 24号



## 慢性呼吸器疾患患者の療養環境整備に関する要望書を厚生労働省へ提出

厚生労働省に対して行う慢性呼吸器疾患患者の療養環境整備に関する陳情は、日本呼吸器疾患患者団体連合会の中では重要な活動の一つであり、今回で3回目となりました。

2017年10月23日の陳情には、連合会の会員団体に加え、準会員の代表の方々にも声掛けを行い、日本呼吸器障害者情報センター（J-BREATH）の遠山和子理事長、岸田遼生事務局長、佐野光秀事務局長、中野佳弘氏と、北海道低肺の会・菱谷正樹会長代行、神奈川もみじ会・杉本正事務局長が出席し、呼吸器疾患患者や家族が抱える問題を説明しました。

（陳情に出席を予定するも、残念ながら体調の関係で叶わなかった方、また、超大型の台風による交通機関の影響を考慮し欠席となった方もいました。）

また、日本呼吸器学会から、理事長の橋本修先生（日本大学医学部内科系呼吸器内科分野主任教授）、保険委員会副委員長の蝶名林直彦先生（聖路加国際病院呼吸器センター特別顧問）、そして日本呼吸ケア・リハビリテーション学会診療報酬適正化委員会委員長でもある堀江健夫先生（前橋赤十字病院呼吸器内科副部長）の3名の先生方に同席いただき、心強い陳情となりました。

このように学会の先生方と全国の患者団体が一緒になって国に働きかけることができるのは、連合会設立以来一貫として行ってきた活動の大きな実績です。

厚生労働省側からは、担当部局である障害保健福祉部、保険局、老健局、医政局、健康局などの総勢15名の担当官が該当する事項に関して答弁を行い、それに対し質疑する形で長時間にわたって熱い議論を交わしました。

### 《要望事項の概要》

#### 1. 自己負担の軽減

更生医療の対象に、内部障害のうち心臓、腎臓などが入っているが、肺が入っていないのは不公平といえないだろうか。また、慢性呼吸器疾患患者は身体障害者認定や介護保険の要介護度認定において認定結果が低く見做される傾向のため、日常生活において支援が十分に得られていない問題があり、適正な対応を求めます。

#### 2. 療養指導および呼吸リハビリテーションの充実

実際に呼吸リハを受けられる医療施設は極めて少なく、また、在宅において呼吸リハを提供する仕組みがありません。シームレスに呼吸リハが継続して提供されるよう仕組み作りが必要です。

#### 3. 在宅酸素療法（HOT）事業者の質の確保

患者にとってHOT事業者の対応は、日頃はもちろん、緊急時、災害時において特に重要です。基準および要件の更なる明確化を求めます。

#### 4. これからの療養環境整備のために

慢性呼吸器疾患（特に COPD）は社会の認知度が低く、診断や治療開始が遅れがちで、外出や災害などの際の配慮も不十分です。慢性呼吸器疾患の認知の向上や予防、新たな治療法などについて、十分な対策を求めます。

～ ◇ ～ ◇ ～ ◇ ～ ◇ ～ ◇ ～ ◇ ～

これらの事項は、従来から慢性呼吸器疾患患者の強い要望として、一貫して提起し続けている項目です。

いずれの要望項目も、制度や基準の改定などを伴うため実現は容易ではなく、解決に向けて目に見えるようには中々前進していかないもどかしさがありますが、これらの“要望の旗”を下ろす訳にはいきません。

行政サイドに十分汲み取ってもらえたかどうか不明の点もありますが、まずは、この度の陳情内容を各部署で再度検討いただくよう話しました。

“継続は力なり”と云います。今後とも要望の旗を高々と揚げ続け、患者の声を結集して、粘り強く訴えて参ります。



患者さん方



先生方

\* 陳情書は日本呼吸器疾患患者団体連合会ホームページ「報告」に掲載しています。

## 活動・イベント情報

### □全国ポリオ会連絡会の活動内容

- 1) 各地ポリオ会が札幌、仙台、名古屋、大阪、神戸、北九州にあり、全国で一つの全国ポリオ会連絡会を構成している。会員数は約900名。平成28年6月から平成30年5月までは今田雅子（札幌）が代表を務めている。
- 2) 全国ポリオ会連絡会では年3回会報を発行し、会員や国内外の交流団体に配布している。
- 3) 各地ポリオ会の主催で、講演会、懇親会、交流会が開催されており、その概要、要旨は全国ポリオ会連絡会会報に掲載される。講演会の内容は、ポリオやポストポリオ症候群に関する話、呼吸障害、リハビリテーション、新しい治療法、家屋のバリアフリー化、車いす（特に電動車いす）、補装具、障害者年金など多岐にわたる。
- 4) 全国ポリオ会連絡会はPost-Polio Health International（PHI、本部は米国セントルイス）の会員である。PHIをはじめ、欧州、米国フロリダ州、豪州のポリオ団体から定期的に会報を受け取っている。その中から連絡会会員に有益と考えられる記事を選び、日本語に翻訳して連絡会会報に掲載している。
- 5) 平成29年5月には、デンマークの映画監督ニールス・フランドセン氏夫妻が京都に来訪された。全国ポリオ会連絡会から6名の会員が出向き、「みやこめっせ」で面談した。彼からデンマークでのポリオやポストポリオ症候群の状況を聞いた。  
私たちも日本におけるポリオのこれまでの流行状況やポストポリオ症候群の現状、ワクチンポリオの状況などと、連絡会の今後の活動方針について情報を提供した。
- 6) 全国ポリオ会連絡会のリーフレットの英語版、中国語版、韓国語版を作成し、配布中である。

（今田雅子、松本光雄、向山昌邦）

### □NPO法人日本呼吸器障害者情報センター

NPO ジェイプレス

検索

5月9日「呼吸の日」を記念し、ウォーキングと肺年齢測定を通し、慢性呼吸器疾患の理解・禁煙・予防啓発のほかに、COPDをはじめ肺炎やぜんそくなどの肺に関する病気について、呼吸の大切さ、環境の大切さを未来に伝え、地域及び国民の健康増進に貢献することを目的としています。



**2018 COPD啓発**  
ラング・ウォーク in 文の京

主催：NPO法人日本呼吸器障害者情報センター  
共催：文京区 日本医師会  
場所：文京シビックセンター 地下2階 区民ひろば  
日付：2018年4月21日(土) 時間：10:00~14:00  
問い合わせ：☎03-5981-1181 [ウォークCOPD](#)

同時開催：肺年齢を測ってみませんか？  
無料で簡単に行えます！（先着200名様）

みんなも応援に来よう！

□第58回日本呼吸器学会学術講演会～市民公開講座のご案内

日 時：2018年4月29日（日） 13：30～15：30（予定）

会 場：大阪国際会議場 メインホール

共 催：公益財団法人日本呼吸器財団

テーマ：「観る運動から実践する運動へ ～日常活動性向上を目指して～」

司 会：荒川 哲男（大阪市立大学 学長）

・会長挨拶 平田 一人（大阪市立大学大学院医学研究科呼吸器内科学 教授）

・オープニングリマーク

荒川 哲男（大阪市立大学 学長）

・「健康寿命ワースト5大阪 ～脱却に必要なものは何か？～」

・講 演 藤本 繁夫（相愛大学人間発達学部発達栄養学科 教授・大阪市立大学 名誉教授）  
・「タイトル未定」

・パネルディスカッション

司 会：荒川 哲男（大阪市立大学 学長）

パネラー：藤本 繁夫（相愛大学 教授・大阪市立大学 名誉教授）

柳本 晶一（一般社団法人アスリートネットワーク 理事長・  
公益財団西宮スポーツセンター 理事長）

巽 樹理（アスリートネットワーク副理事長・

シンクロナイズドスイミング銀メダリスト・大阪市教育委員）

上記は予定のプログラムとなります。変更の可能性もございますので、詳細は第58回日本呼吸器学会学術講演会ホームページ<http://www.jrs.or.jp/jrs58/>にてご確認下さい。

●日本呼吸器疾患患者団体連合会 事務局●

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目28番8号 日内会館7階

一般社団法人日本呼吸器学会 気付

TEL：03-5805-3553 FAX：03-5805-3554

URL：http://www.jrs.or.jp/jrs\_patient/index.html

日本呼吸器疾患患者団体連合会へのコメントはこちらまで：ptrengokai@jrs.or.jp